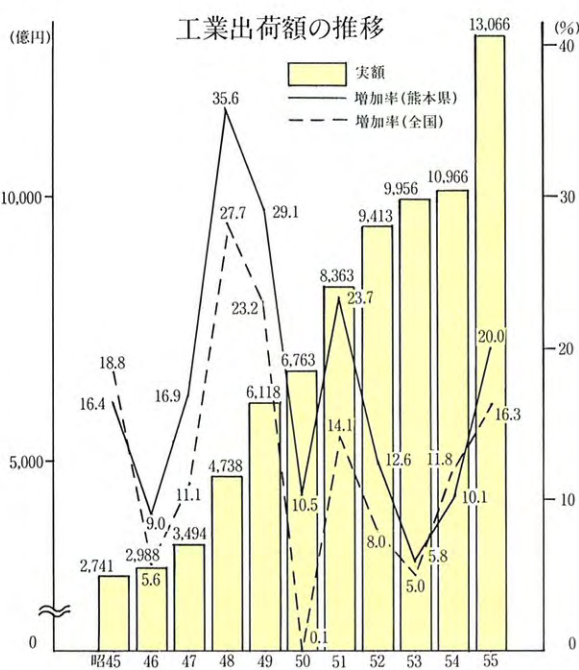
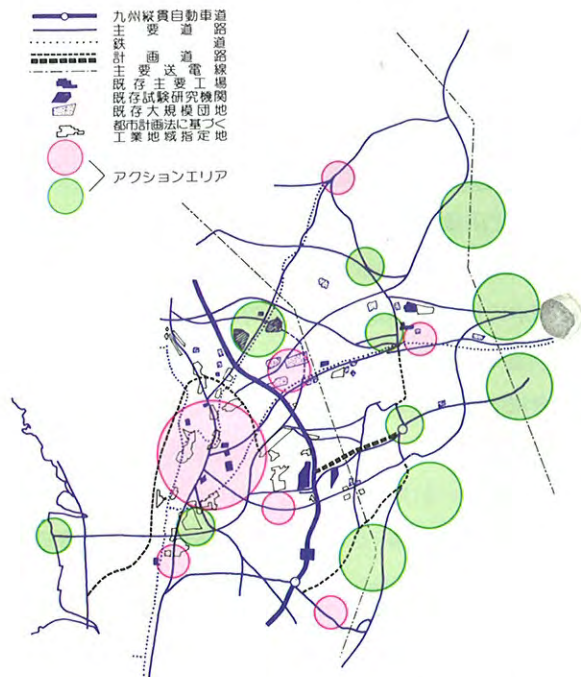


商工業の振興

農林漁業については、このように各般の施策を進めてきましたが、1次産業だけでは雇用の場の拡大を求めるには限界があり、県民所得の向上と時代の流れに応じた雇用の機会を確保するため、2次・3次産業の振興を県内各地域で均衡のとれた形で進めてきました。まず工業開発を進めるに当たっては、工業用地の確保をはじめ立地条件の整備ならびに関係市町村及び地域住民の合意を得ながら積極的に企業の誘致につとめてきました。昭和46年以降56年までに県下に137企業が進出し、熊本県産業の発展と雇用の増加安定に大きく寄与しています。とくに、有明地域の造船業、金属加工業、北部内陸部の自動車製造業、八代地域の金属加工業、さらには、県内各地の電気機械器具製造業など、いずれも地域開発の原動力となっています。このような工業振興の努力の結果、昭和49年から54年までの熊本県の製造品出荷額の増加は、全国第一位の高い伸びを示しました。



テクノポリス建設計画—まちづくりのすがた



なお、新しい地域開発の試みであるテクノポリス構想(高度技術集積都市)の推進についても、熊本県は積極的に取り組み、昭和56年度に基本構想を全国にさきがけて策定しました。今後とくに、先端技術型産業の積極的な誘致をはかり、既存工業と調和のとれたつながりを確保しながら、高度の産業集積を熊本テクノポリスに形成することにより、周辺地域はもとより、県下全域への技術の波及効果と新しい地域開発の波及効果を確保し、県経済の総合的な発展への起爆剤とすることを目指しています。

また、県内の中小企業については、中小企業金融制度の拡充をはかることにより近代化、高度化事業を推進しています。さらに、熊本県の豊かな資源をいかした地場産業の振興とともに、伝統工芸産業の振興についても、風土や暮らしのなかで伝統工芸品の保存育成をはかる拠点として、昭和55年から伝統工芸館の建設に着手し、57年8月に開館しています。

観光の振興

観光については、県内に数多く存在する観光資源の積極的な活用をはかりながら、観光のもつ経済効果が県内全域に波及するようにつとめてきました。また、観光客の多様な需要に的確に対応するため、県内各地域における「明日の観光を創る会」の設置のよびかけや新しい観光地熊本を広く全国に宣伝し熊本県への観光客を誘致する熊本県大型観光キャンペーンを実施しています。施設の整備としては矢部郷国民休養地、芦北海岸国民休養地をはじめ、南阿蘇国民休暇村の整備、九州自然歩道整備を積極的に進めたほか、大規模年金保養基地の建設に着手しています。



通潤橋(矢部)



うたせ網(芦北)



九州自然歩道(金峰山)



南阿蘇国民休暇村(高森)